

80.9.14-16 佐梨川奥壁（第二スラブ～第四スラブ下降）

今まで登った壁の中でも思い出深い壁の一つで、アプローチの途中にあった家の人に「遭難死しても自分の責任です。」と念書を書かされたことから始まり、異例づくめの山行となった。

昔は銀を採掘していたようで、そのために岩壁をくり貫いて作られた道から下降して第二スラブに取り付いた。残置支点はほとんど無く、登山靴でのスラブ登攀はとても緊張させられた記憶がある。特に怖かったのは第二スラブ上部にあるハング帯の乗越しと、雪渓からのボラードを利用したの下降だった。

第二スラブと第三スラブ



第二スラブ1P目



ハング帯上部のスラブ登攀



ハング帯を越えたテラスで確保する塚原



登れそうもなかった上部岩壁



雪渓からのボラードによる懸垂下降



水平歩道に下りてホッと一息

